



定年男性集いそば打ち

長岡京「居場所の会」が大会

定年退職後の男性が、会員25人が打ちたて、集う住民グループ「男ゆでたての新そばに舌の居場所の会」のそば打ち大会が21日、長岡京市神足2丁目1番館であった。



交代しながらそばの生地をめん棒で延ばす参加者
(長岡京市神足2丁目・パンピオ1番館)

ろから新そば粉が手に入る、この時期に手打ちそばを始めた。その後、希望者も増え11年から全体事業として実施している。

大会では、分科会リーダーの荻野和雄副会長が指導役を務めた。参加者の多くがそばを打つのに慣れており、2人一組で木鉢にそば粉8割と小麦粉2割の「二八そば」の分量を入れ、根気よく練り込み生地を作った。めん棒で延ばして折りたたみ、そば切り包丁で細く切りそろえた。

生そばはゆでて冷水にくぐらせ、ざるに取り分けた。揚げたての

天ぷらとともに、つゆは「打ちたてはうまい」をつけて食べ、参加者と出来栄や味に満足していた。

(佐々木伸次)